

# 上三川の日のなりの日

## 上三川を襲った未曾有の大水害 (1902〈明治35年〉9月28日)

9月は台風が多く上陸する月ですが、河川が多く流れる上三川では、常に台風による災害を警戒しなければなりません。堤防工事をはじめとした治水事業によって、洪水等の被害は激減していますが、

以前の上三川は毎年のように洪水の被害を受けていました。今回はその中でも103年前の9月28日に大きな被害をもたらした通称“足尾台風”を紹介します。

1902年の夏は天候不順が続く、9月18日には電気が降り、農作物に被害をもたらしました。被害の傷跡が癒えない9月28日に、さらに大きな被害をもたらす

“足尾台風”が栃木県を襲いました。この台風は名前の通り、315ミリもの雨が降

った足尾地方を中心として栃木県下全域で死者・行方不明者219人、家屋の全壊・流失が8、200戸に達し、日光では神橋も濁流に流されました。この暴風雨により、鬼怒川も流心が変わるほどの



上郷での堤防決壊の様子

大洪水となり、上郷付近の堤防が、長さ700mに渡って決壊し、本郷村南部から上三川町付近にかけて大被害を受けました。

中でも決壊した上郷堤防付近の田畑は濁流にのまれ、漂流する大木が民家を押し流し、本郷村立南尋常小学校をはじめ多くの建物が倒壊しました。本郷村では、死者1名、重軽傷者7名、全壊の建物511棟にのぼり、被害総額は現在の金額で約8億円になりました。また、救助米を受けた家は150戸にのぼり、この年の収穫量は5〜7割も低下

しました。このほかにも、風雨により正清寺、善応寺が倒壊し、明治第一尋常小学校も全壊するなど、甚大な被害をもたらしました。

これに対して、本郷村では被害を受けた田畑の地租（土地に対して課する収益税）の免除を国会に請願し、宇都宮税務署に対しても同様の請願を行ないますが認められず、さらに地租の延納願を提出しましたが、それすらも認められないなど、災害後の人々の暮らしは厳しいものとなりました。

今でこそ、上三川町は洪水をはじめとした災害の少ない町となっていますが、このようになるまでは、先人の大きな苦勞がありました。このような苦勞を乗り越えて、今の住みよい町があることを私たちは忘れてはならないでしょう。

# 忘報川柳

岡島香宝選

減反の雑草につく政策費

上蒲生

柳田 智江

高層のビル遊び場にしてカラス

石田

大島 昇

石投げて波紋楽しむ川にいる

石田

柳田 政孝

飽食で国民病に泣かされる

上町

上野 広江

旅二日茄子もきうりも日射病

上蒲生

菅原 妙子

応募したチケット届く幸運日

三村

上野久美子

エリートので妻でエプロン僕がする

石田

柳田キミ子

戦争の記憶を辿る八月忌

大町

大八木トク

笑われて植えた梨の実ほめられる

石田

稲葉 チイ

いいとこで目覚め続きを見たい夢

上蒲生

渡辺 文子

ひと夏を楽しむように蝉が鳴く

石田

大塚 ナカ

省エネへしばしネクタイひと休み

上蒲生

菅沼 マサ